受 理 番 号	陳情第 8 号	受 理 年 月 日	平成 26 年 9 月 26 日
件 名	「寄田、久見崎海岸におけるウミガメの上陸、産卵、ふ化数の減少と川内原発の安全対策工事の因果関係」に関する陳情		
陳 情 者	森永 明子 外 1 名		
要 旨			
<p>今年のウミガメの産卵のシーズンが終わったが、寄田、久見崎海岸では両海岸ともに3頭の産卵と減少した。寄田海岸では、毎年約20頭が産卵をしていたし、久見崎海岸でも、2010年には25頭の産卵の記録がある。</p> <p>鹿児島県は、ウミガメの上陸産卵頭数が日本で一番多く、砂浜の減少などで、世界的に絶滅の危機にあると言われているウミガメを保護するために、1988（昭和63）年に「鹿児島県ウミガメ保護条例」を制定し、県民が「一体となって、その保護を図り、もつて将来の県民にこれを共有の資産として継承すること」が明記されている。</p> <p>また、薩摩川内市では、安心してウミガメが産卵できる海岸を守るために保護監視員によるパトロールが実施されている。</p> <p>しかし、両海岸に行くと、川内原子力発電所の安全対策工事が行われていて、工事に伴う重機の音や放送などが聞こえてくるのが気になる。人間には感じられないが、それに伴う振動などもあるのではないかと思う。また、木を切り、山を削ったり、土を盛ったりすることで、大量の赤土が海に流れ込んでいるのか、砂浜に黄色い泥や泡のような汚れが広がっていることもある。このことが、今年のウミガメの産卵の減少に影響しているのではないかと懸念している。</p> <p>久見崎海岸では、木の伐採により、原発建屋や高く盛った敷地までが見えるようになった。寄田海岸からも、新しく建てた建物の明かりが、夜になっても見え続けている。</p> <p>ウミガメは夜に産卵、ふ化をする。3号機増設のときの環境アセスメントには、ウミガメに配慮した項目があったが、今回の安全対策では全く配慮をされていない。ふ化をしたウミガメの赤ちゃんは光に向かって進む習性があるので、海岸からは光が見えないようにするなどの配慮があったはずである。</p> <p>また、ウミガメの産卵には、年間を通じて海岸の清掃を行い、流木や大陸からの漂流物を片付けることが必要不可欠であるが、現在の薩摩川内市のウミガメ保護監視員の仕事は5月から10月までに限定されており、それ以外の期間は、九州電力の敷地となった松林の立入りが制限されるなど、これからますますウミガメの保護が難しくなっていくことが予想される。</p> <p>このままこのような環境対策無視の工事が続けば、来年には寄田、久見崎両海岸には、ウミガメの上陸、産卵はなくなるのではないかと危機感を感じている。</p> <p>ついては、きちんとした調査を行い、対策をとっていただくよう下記事項について</p>			

陳情する。

記

- 1 寄田、久見崎海岸におけるウミガメの上陸、産卵、ふ化数の激減と川内原発の安全対策工事の因果関係について、市で調査を行うよう市議会から働きかけていただきたい。
- 2 因果関係が分かるまで、川内原発の安全対策工事を中止するよう事業者に求めていただきたい。
- 3 ウミガメ保護監視員の仕事を、年間を通じて行えるよう改善していただきたい。
- 4 これからも寄田、久見崎海岸でウミガメが上陸、産卵できるよう、環境を守っていただきたい。